
はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA）では、国際協力に関する知識の普及と国民の理解の推進を果たすべき使命の一つとしており、教育を通じたアプローチとして、国民への開発途上国に関する「知見の還元」、自分に何ができるかを「考える機会の提供」、および JICA が地域での開発教育推進のための「橋渡し役」となることの 3 点に重点を置きながら国際理解教育・開発教育の支援に取り組んでいます。

なかでも学校教育の現場で次世代を担う児童・生徒の教育に携わり、国際理解教育・開発教育に関心を持つ教員を対象としては、教師海外研修を毎年実施しています。教員の方々が実際に開発途上国を訪問し、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業実践等を通じて、教育活動に役立ててもらうことを目的としています。

2018 年度は、JICA 東京センター及び駒ヶ根青年海外協力隊訓練所の所管地域からは、東京都、埼玉県、千葉県、群馬県、新潟県、長野県から 20 名の教員を募り、国内研修を経て、ベトナム、ザンビアの 2 か国に派遣しました。本報告書は、今年度の研修の概要及び参加者の帰国後の勤務校における授業実践の実例をまとめたものです。

教育現場の第一線で日々生徒たちと向き合っている教員の方々が、実際に開発途上国の空気にふれるとともに国際協力の現場を直接見聞きすることで、実体験をふまえた授業につながると期待しており、今回参加者がそれぞれの教育現場で実践を行っていただいたことは大きな励みとするところです。これらを通じて生徒たちの理解が深まり、他の教員の方々にも波及していくような好循環が生まれることを期待しています。

結びに、本研修の実施にあたりご支援をいただいた外務省、文部科学省、各教育委員会並びに関係諸団体に感謝を申し上げますとともに、今後とも JICA が取り組む市民参加協力事業にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

独立行政法人国際協力機構（JICA）東京センター

所長 木野本 浩之

目 次

はじめに	1
1. 参加者一覧	4
2. 教師海外研修概要	5
3. 派遣前研修	10
4. 研修参加者写真	12
5. 海外研修（ベトナム）	13
6. 海外研修（ザンビア）	20
7. 派遣後研修	27
8. 授業実践	28
小学校 教科	
本木 淳也 佐倉市立南志津小学校	農家の仕事 小学3年生 社会科 30
新居 名菜子 東村山市立東菰山小学校	世界の人々とともに生きる 小学6年生 社会科 36
増子 美香 吉川市立美南小学校	算数卒業旅行 ～国際コース～ 小学6年生 算数科 42
小学校 道徳・総合的な学習の時間	
喜多 良仁 羽村市立栄小学校	けんこうに きをつけて 小学1年生 道徳科 48
迎里 健也 八王子市立鑑水小学校	未来のためにできること 小学4年生 総合的な学習の時間 54
山田 あかり 駒ヶ根市立中沢小学校	ベトナムと中沢 小学4年生 総合的な学習の時間 60
小学校 教科横断の実践	
佐藤 英恵 杉戸町立杉戸小学校	世界の国々に目を向けよう 小学4年生 国語・社会・道徳・総合 66
多田 幸城 千葉市立宮野木小学校	世界の未来と日本の役割（社会科）・ 心のバランス（道徳科） 小学6年生 社会科・道徳科 72
中学校 教科など	
平田 慶子 大田区立六郷中学校	感染症の予防 中学3年生 保健体育 78
中島 真紀子 筑波大学附属中学校	Lesson 6: My Dream 中学2年生 外国語科 84
山口 三依子 市原市立五井中学校	幸せって何だろう？ 中学1年生 道徳科・学活 90

高等学校 国語科		
木村 奈津子 埼玉県立和光国際高等学校	「グローバル市民」養成講座 ～グローバルな視野で多角的・批判的に思考する～	高校2年生 現代文B96
川上 絢子 東京都立青梅総合高等学校	虚ろなまなざし、南の貧困 / 北の貧困、 戦争の〈不可能性〉	高校3年生 現代文102
高等学校 地理歴史科、理科		
西 克幸 桜美林高等学校	地球的課題と私たち －世界の人口問題・都市住居問題－	高校1年生 地理A108
菅原 唯 千葉県立市川工業高等学校	酸と塩基	高校2年生 化学基礎114
高等学校 外国語科		
関山 茂樹 新潟清心女子中学・高等学校	“Saving the Cherokee” および “Ashura: A Statue with Three Faces” から見る言語・文化 多様性とESDについて	高校2年生 コミュニケーション英語Ⅱ120
島倉 沙織 長野県下高井農林高等学校	ザンビアで行われている農業開発や農村開発を知り、 国際協力について考えよう～農業を通して考える、 私たちがよりよい世界のためにできること～	高校3年生 実用英語126
高等学校 総合的な学習の時間		
吉田 大祐 埼玉県立鳩ヶ谷高等学校	「日本人の幸福ってなんなの？」 ～ベトナムを通じて考える私たちの幸せ～	高校2年生 総合的な学習の時間132
特別支援学校（特別支援学級含む）		
佐藤 大樹 埼玉県立本庄特別支援学校	廃品を活用してオリジナルチテンゲを作ろう ゴミを分別して捨てて、市町村ごとのゴミの出し方 を知ろう	中学部2年生 美術・職業・家庭 生活単元学習138
小針 真利恵 町田市立山崎小学校	異文化理解と国際協力から考える、わたしの今と未来	小学6年生 自立活動 特別支援学級（難聴）144

9. 授業実践報告会150
10. 全体報告会151
11. 教師海外研修を終えて152
12. 学校・教員のための開発教育・国際理解教育支援プログラム154
おわりに156

1. 参加者一覧

ベトナムコース参加者

氏名	都県名	学校名	担当教科
小針 真利恵	東京	町田市立山崎小学校	全教科（特別支援学級）
川上 絢子	東京	東京都立青梅総合高等学校	国語
迎里 健也	東京	八王子市立鎌水小学校	全教科
増子 美香	埼玉	吉川市立美南小学校	全教科
木村 奈津子	埼玉	埼玉県立和光国際高等学校	国語
吉田 大祐	埼玉	埼玉県立鳩ヶ谷高等学校	地理歴史
本木 淳也	千葉	佐倉市立南志津小学校	全教科
山口 三依子	千葉	市原市立五井中学校	英語
関山 茂樹	新潟	新潟清心女子中学・高等学校	英語
山田 あかり	長野	駒ヶ根市立中沢小学校	全教科

同行者

氏名	所属	役割
佐藤 真久	東京都市大学	アドバイザー
深林 真理	JICA 東京センター 市民参加協力第一課	計画管理

ザンビアコース参加者

氏名	都県名	学校名	担当教科
中島 真紀子	東京	筑波大学附属中学校	英語
西 克幸	東京	桜美林中学高等学校	地理
新居 名菜子	東京	東村山市立東萩山小学校	全教科
平田 慶子	東京	大田区立六郷中学校	保健体育
喜多 良仁	東京	羽村市立栄小学校	全教科
佐藤 大樹	埼玉	埼玉県立本庄特別支援学校	全教科
佐藤 英恵	埼玉	杉戸町立杉戸小学校	全教科
多田 幸城	千葉	千葉市立宮野木小学校	全教科
菅原 唯	千葉	千葉県立市川工業高等学校	理科（化学）
島倉 沙織	長野	長野県下高井農林高等学校	英語

同行者

氏名	所属	役割
遠藤 宏之	JICA 東京センター 市民参加協力第一課	アドバイザー
古賀 聡子	JICA 東京センター 市民参加協力第一課	計画管理

2. 教師海外研修概要

■研修の目的

- (1) 国内研修と海外研修を通じ、世界が直面する開発課題及び日本との関係、国際協力の必要性に対する研修参加者の理解を促進する。
- (2) 研修参加者による学校現場等での授業実践を通じ、開発課題を自らの問題として捉え、主体的に考える力、またその根本解決に向けた取り組みに参加する力をもつ児童・生徒を育成する。

また研修参加後は、JICAと協力し、または自発的に教育現場で国際理解教育/開発教育の推進に活躍していただくこともねらいとしています。

[研修で修得を目指すスキル]

- ① 国際理解・開発教育の必要性を理解し、説明できる。
- ② 開発途上国が置かれている現状、国際協力の現場で起きている現状を理解し、生徒・児童に説明できる。
- ③ 開発途上国と日本との関係、特に相互依存関係について理解し、生徒・児童に説明できる。
- ④ 国際協力の必要性及びJICAの概要を理解し、生徒・児童に説明できる。
- ⑤ 上項を踏まえた開発教育（国際理解教育）の授業計画・教材を作成し、授業を実施できる。

■主催：

独立行政法人 国際協力機構 東京センター（JICA東京）
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所（JICA駒ヶ根）

■後援：

外務省、文部科学省、各都県及び政令指定都市の教育委員会、各都県の私立中学高等学校協会

■研修国と募集人数

ベトナム：10名
ザンビア：10名

■研修内容

- ・日本における座学・ワークショップの実施
- ・開発途上国（JICAの事業現場等）への訪問
- ・学校現場での国際理解教育/開発教育の授業実践

■研修日程

7ページに記載のとおり

■応募資格

次の資格をすべて満たす方とする。

- ① 東京都、埼玉県、千葉県、群馬県、新潟県、長野県の国公立、私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校（1～3年生を担当）、特別支援学校において教職員として教育活動に従事していること。
- ② 応募締切（2018年5月11日）の時点で、初任者研修を修了していること。私立学校に勤務する者の場合は、応募締切時点で一年以上の教員経験を有すること。
- ③ 所属する学校の校長の推薦および実践授業の実施およびその公開に理解があること。
- ④ 研修国の事情を勘案した上で、参加に耐えうる健康状態であること（持病を持っていない事、継続的な投薬・治療を行っていない事）
- ⑤ 過去に、本研修、JICAボランティア、JICA専門家、国際協力レポーター、JICAパートナーシップセミナー、ODA民間モニター等当機構の事業にて海外に派遣された経験がないこと。また、それらの事業への応募中でないこと。

■参加要件

次の要件をすべて満たす方とする。

- ① 国内研修及び海外研修の全行程に参加可能であること。
 - ② パソコンメールアドレスでの連絡（ファイルの送受信を含む）が可能なこと。
 - ③ 帰国後、所定期日内に海外研修報告書を提出すること。
 - ④ 帰国後、本研修の定めた期間内に所属校において授業の実践を行うこと。
 - ⑤ 当該授業の実践報告書を提出すること。
 - ⑥ JICAのウェブサイトにて一般公開されることに同意すること。
 - ⑦ JICAが実施する国際理解・開発教育支援事業に協力（エッセイコンテストへの応募など）可能であること。
 - ⑧ 本研修の過年度参加者ネットワークづくり（各都県を含む）に参加・協力可能であること。
- ※ また、研修成果を児童・生徒だけでなく他の教員にも広く還元していただくことを目的とし、校内研修や研究授業の実施を推奨いたします。

■参加費用

(1) JICA負担

- ・ 研修に必要な国内交通費、宿泊費（日当は除く）
- ・ 講師謝金（国内研修、海外研修）
- ・ 海外渡航費（含トランジットの際の宿泊費）
- ・ 旅行雑費（査証料、空港使用税のみ）
- ・ 現地視察に必要な交通費及び入場料
- ・ 海外旅行保険（国際協力友の会加入費）

(2) 参加者負担

- ・ 食費（国内研修、海外研修）
- ・ 海外における宿泊費
- ・ パスポート取得費用
- ・ 予防接種代（必要に応じて）
- ・ 追加保険の加入費用等

2018年度の募集要項は、JICA東京のホームページでご覧いただけます。

■研修の流れ

◇派遣前研修

6月30日(土)・7月1日(日)

- ・研修の趣旨および、JICA や日本の国際協力、訪問国に関する理解を深める。
- ・国際理解教育 / 開発教育への理解と参加型学習の手法の体験。
- ・研修における各自の役割の理解と、海外研修に向けて準備。



◇海外研修

■ベトナムコース：8月8日(水)～8月17日(金)

■ザンビアコース：7月25日(水)～8月5日(日)

訪問国の現状や国際協力の必要性、日本との関係について、実際の現場を訪問することで体験、理解する。また、授業実践に必要な教材の材料等を収集する。

※帰国後、海外研修報告書の提出



◇派遣後研修

8月26日(日)

海外研修の経験を生かした授業の実施・教材作成について考える。



◇授業実践

9月～12月(各勤務校において1回以上)

研修の経験を生かした授業を実施し、成果を各自で検証する。

※実施後、授業実践報告書の提出



◇授業実践報告会

12月～2月(各都県別に1回)

研修の成果(主に授業実践)について、教育関係者をはじめとする地域の方に報告する。



◇全体報告会

3月16日(土)

持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力を見直し、授業改善のサイクルにつなげる。



◇教師海外研修参加後(翌年以降)

研修の成果を生かして、各所属校および地域で国際理解教育 / 開発教育を推進する。

- ・授業 / 活動のブラッシュアップ
- ・JICA 国際理解教育 / 開発教育支援プログラムの活用
- ・実践者のネットワークへの参加 等

■JICA教師海外研修（2018年度）事前課題

2015年9月、国際社会は、国連サミットにおいて「持続可能な開発目標」Sustainable Development Goals (SDGs) に合意し、17の国際目標と169の指標が提示されました。SDGsは、複雑に絡み合う経済・社会・環境問題に対し、すべての国が包括的に取り組むことを求めています。開発途上国だけではなく、日本を含む先進国も国内目標を設定し、開発の恩恵から誰一人取り残されない、持続可能な世界の実現を目指しています。JICAは、開発途上国や国際社会とのパートナーシップのもと、SDGsの達成に積極的に取り組んでいます。



派遣前研修の事前課題として、参加教諭には勤務校周辺でSDGsに関係すると思われる写真を3枚撮影し、①撮影者、②撮影場所、③撮影日、④撮影した理由、⑤SDGsとの関係性について記載をし、派遣前研修に持参していただくことをお願いしました。

写真の例

<p>撮影者：山田太郎 撮影場所：●●市立●●小学校近隣 撮影日：2017年5月30日 撮影した理由：駐輪してある自転車が点字ブロックにはみ出して危険 SDGsとの関係：3. すべての人に健康と福祉を</p>	<p>撮影者：山田花子 撮影場所：●●県立●●高校学区域 撮影日：2017年5月30日 撮影した理由：まだ使えるかもしれない家電製品が捨てられている SDGsとの関係：7. エネルギーをみんなに。そしてクリーンに 12. つくる責任つかう責任</p>	<p>撮影者：国際一郎 撮影場所：●●市立●●小学校通学路 撮影日： 撮影した理由：通学路にもいる外来種。ヒトへのサルモネラ菌の感染例あり。在来淡水カメ類の卵を捕食するほか、食物となる水動植物が影響を受ける SDGsとの関係：14 海の命を守ること</p>

■提出された課題（一部）



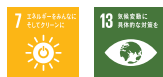
- ①本木 淳也
- ②佐倉市上志津原
- ③2018年6月23日
- ④幼虫はキャベツをエサとしており、農家にとっては害虫である。駆除するために農薬を散布すると幼虫は死ぬが、人間への健康被害はないのだろうか。
- ⑤1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 6 安全な水とトイレを世界中に 12 つくる責任つかう責任



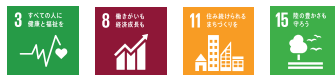
- ①増子 美香
- ②勤務校周辺の田んぼ
- ③6月26日
- ④田んぼでは、お米が作られているのにも関わらず、ゴミが多数捨ててある。衛生面からも、不安である。(水やお米)
- ⑤6、安全な水 11、住み続けられるまちづくりを 12、つくる責任つかう責任



- ①木村 奈津子
- ②和光国際高校の前庭
- ③2018年6月19日（火）
- ④風力とソーラーハイブリット式の発電機。風力・太陽光など自然エネルギーを電気に変換して蓄え、照明の電源として使用されている。周囲に遮るものがなく日当たり良好。上部の回転パネルがくるくると回り、モニュメントとしても価値あり。
- ⑤7、エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13、気候変動に具体的な対策を



- ①島倉 沙織
- ②学校周辺の河川敷
- ③2017年7月2日（日）
- ④特定外来生物「アレチウリ」は年々河川敷や耕作放棄地など育成範囲を広げている。生徒はアレチウリの生態とその被害について学び、地域の人々と駆除活動を行っている。
- ⑤3、すべての人に健康と福祉を 8、働きがいも 経済成長も 11、住み続けられるまちづくりを 15、陸の豊かさも守ろう



- ①菅原 唯
- ②市川工業高等学校（本校）の中庭
- ③2018年6月22日
- ④本校の女子の制服。今年度から新しくなり、女子もスラックス着用が可能になった。全校女子生徒のうち、6名がスラックスを着用している。
- ⑤5、ジェンダー平等を実現しよう 10、人や国の不平等をなくそう



- ①平田 慶子
- ②大田区立六郷中学校 2年の給食後の配膳台
- ③2018年6月20日
- ④この日はまだ、残債が少なかったのですが、この前日は山盛りの焼きそばが残菜としてごみとなりました。
- ⑤2、飢餓をゼロに



3. 派遣前研修

日時：2018年6月30日（土）・7月1日（日）

場所：JICA 地球ひろば・JICA 東京

- 目的：① 地球的規模の課題、途上国の現状、国際協力・ODA、JICA 事業、訪問国の概要等を理解する。
 ② 国際理解・開発教育の理念・意義を理解し、授業実践に用いる教材の作成方法を理解する。
 ③ 研修における各自の役割を理解する。また、海外研修における各種手続き・事前準備を行う。

6月30日（土） 派遣前研修 1日目@ JICA 地球ひろば

所要時間	プログラム	目的/説明	講師・進行
09:30	受付開始		
10:00	5 開催挨拶	研修の意義・期待される成果について理解する	JICA 東京 杉村悟郎
10:05	20 参加者自己紹介	研修にかかわるメンバーを知る	
10:25	40 【事業説明】 日本の国際協力と JICA 事業 教師海外研修の概要	ODA と JICA 事業について理解する 研修の目的と全体スケジュール確認	JICA 東京 古賀聡子
11:05	5 休憩		
11:10	60 【講義】 資質・能力の育成に向けた授業づくり	JICA の海外教師研修と資質・能力を育成する授業づくり	国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官 松原 憲治
12:10	70 昼食	地球ひろばカフェ (J's Cafe)	
13:20	50 【講義】 参加型学習の手法	参加型学習の手法の一端に触れ、授業案の質の向上に役立てる	JICA 東京 遠藤宏之
14:10	5 移動		
14:15	30 【見学】 JICA 地球ひろば体験ゾーン	SDGs/ 開発教育支援プログラム体験し、世界の課題と国際協力の必要性を知る	地球案内人
14:45	5 移動		
14:50	30 【説明】 JICA 開発教育支援プログラム・各県ネットワーク紹介	JICA の国際理解教育/ 開発教育支援プログラム及び教師海外研修過年度参加者等の各県ネットワークについて知り、今後の連携を考える	JICA 東京 推進員
15:20	30 安全管理情報 VTR 視聴	安全対策について理解する	JICA 東京
15:50	10 休憩・移動		
16:00	80 <コース別> 【渡航ブリーフィング】 海外研修について	海外研修先の国別概要・日程説明 必要な準備、諸手続き、渡航留意点（入国・出国手続き、経由国対応）予防接種、任意保険・航空券手配など確認 グループ内係分担	JICA 東京 深林真理 JICA 東京 古賀聡子
17:20	15 事務連絡		JICA 東京
17:35	幡ヶ谷へ移動	移動・チェックイン	
19:00	60 懇親会	コースごとに研修時のかかり分担も行う	

7月1日（日） 派遣前研修 2日目@ JICA 東京

所要時間	プログラム	目的/説明	講師・進行
09:00	15	事務連絡	JICA 東京 深林真理
09:15	90	【講義】 国際理解教育とアクティブラーニング	東京都市大学 佐藤真久
11:00	60	【授業実践事例紹介】 小学校 総合学習	栢之間 倫太郎（ザンビア）
		小学校 国語	石井 理紗子（ベトナム）
		高等学校 世界史	大野 直知（ザンビア）
12:00	60	昼食	
13:00	30	【講義】 授業実践計画の留意点	JICA 東京 遠藤宏之
13:30	30	<コース別> 【個別ワーク】 授業計画の修正・発表準備	東京都市大学 佐藤真久 JICA 東京 遠藤宏之 可能であれば過年度参加者
14:00	10	休憩・発表準備	
14:10	140	<コース別> 【グループワーク】 授業計画の共有と検討	東京都市大学 佐藤真久 JICA 東京 遠藤宏之
16:30	20	事務連絡・アンケートの記入	JICA 東京 古賀聡子
16:50		解散	



【講義】 資質・能力の育成に向けた授業づくり



【講義】 授業実践計画の留意点



【講義】 国際理解教育とアクティブラーニング



【授業実践事例紹介】

4. 研修参加者写真

ベトナムコース



ザンビアコース



5. 海外研修（ベトナム）

（1）研修国の概要

正式名称：（和文）ベトナム社会主義共和国
（英文）Socialist Republic of Viet Nam



政 体：社会主義共和国

首 都：ハノイ

面 積：32万9241平方km

人 口：約9,370万人（2017年、越統計総局）

民 族：キン族（ベトナム人）86%、他に53の少数民族

言 語：ベトナム語

宗 教：仏教、カトリック、カオダイ教ほか

通 貨：ドン（Dong）

通貨レート（国家銀行による基準レート）：

1ドル＝約22,522ドン（2018年4月）

日本との時差：-2時間

主要産業：農林水産業、鉱業、工業

G D P：約2,235億米ドル（2017年、越統計総局）

一人当たりGNP：2,385米ドル（2017年、越統計総局）

経済成長率：6.81%（2017年、年平均、越統計総局）

略 史：紀元前2世紀ごろから中国の支配を受けたのち、10世紀に独立。1883年フランスの植民地となる。1945年ベトナム民主共和国として独立。1954年南北分割。1965年米軍直接介入開始。1973年のパリ和平協定を経て1976年南北統一。

気 候：南北に1200kmと細長い国土を持つため、同じ時期でも地域によって気候は大きく異なる。ハノイを含む北部は亜熱帯性気候で、四季の変化がある（ただし、ハノイの四季は40度近い夏（4月～9月）と暖房の必要な冬（1～3月）、及びこれらに短い春と秋がある程度）。ホーチミンを含む南部は熱帯モンスーン性気候で、乾季（11月～3月）と雨季（5～10月）の二季がある。ハノイの平均気温は摂氏27.3度。

在留邦人数：16,145人（外務省海外在留邦人数調査統計 2016年10月現在）

在日ベトナム人数：262,405人（法務省在留外国人統計 2017年12月末現在）

青年海外協力隊派遣取極：1994年



【参考サイト】

・外務省「各国・地域情勢（ベトナム）」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/index.html>（2019年2月アクセス）

・JICA「国別生活情報（ベトナム）」

<https://www.jica.go.jp/regions/seikatsu/ku57pq000005g185-att/vietnam-p.pdf>（2019年2月アクセス）

(2) 海外研修日程

日付	時間	活動・訪問先	ねらい
8/8 (水)	午後	羽田発→ハノイ着	
8/9 (木)	午前	JICA ベトナム事務所	ベトナム事情、JICA が行っている事業について理解を深める
	午後	リンダム湖周辺エリア	下水が未整備のエリアの視察。
	夕方	振り返りミーティング	研修での学びの整理・共有を行う。
8/10 (金)	午前	Agricultural Service Cooperative ＜技術協力プロジェクト＞	技術移転プロジェクトの現状と成果を理解する。
	午後	ハマデン社 ＜円借款プロジェクト＞	ベトナムへの日系企業進出と ODA 現状を理解する。
	夕方	振り返りミーティング	研修での学びの整理・共有を行う。
8/11 (土)	午前	ホアビンへ移動	
	午後	各家庭	ホームステイを体験し、ベトナムの家庭、暮らし、文化について理解を深める。
8/12 (日)	午前	各家庭	ベトナム民族の生活・文化・くらしを理解する。
	午後	ホンハーセンター（書店）	現地の教科書を購入する。
8/13 (月)	午前	Trung Tu 小学校	授業の視察や児童との交流を通して、ベトナムの教育現場に対する理解を深める。
	午後	ホーチミンへ移動	
8/14 (火)	午前	ツーズー病院平和村 戦争証跡博物館	枯葉剤被害者を通じ戦争の恐ろしさ、平和・国際協力の大切さを学ぶ。
	午後	清水建設株式会社 ＜円借款プロジェクト＞	ベトナムへの日系企業進出と ODA 現状を理解する。
8/15 (水)	午前	Hoang Vu Limited Company ＜技術協力プロジェクト＞	技術移転プロジェクトの現状と成果を理解する。
	午後	グエンディンチェウ病院 ＜青年海外協力隊配属先＞	青年海外協力隊の活動内容とベトナム医療協力の現状を理解する。
8/16 (木)	午前	ベトナム日本人材協力センター・ホーチミン市 ＜技術協力プロジェクト＞	技術移転プロジェクトの現状と成果を理解する。
	午後	JICA ホーチミン出張所	研修内容と成果について、JICA ベトナム事務所及びホーチミン出張所に報告する
8/17 (金)	午前	ホーチミン発→羽田着	

(3) 海外研修トピックス

◆「北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト」サイト

栽培技術の基準・認定制度を設け、安全な作物の栽培振興をはかる技術協力プロジェクトの実施状況・成果などを理解するため、プロジェクトサイトを訪問。日本人専門家より概要説明を受けた後、現地の農業組合関係者から生産作物を実際に見せて頂き、プロジェクトの成果などについてお話を伺いました。



◆ HAMADEN VIETNAM.Co.,LTD

ベトナム北部開発の中心エリアに進出している日系企業を訪問。「安全」「安心」「快適」を重視している工場を見学させて頂きました。JICA がこれまでに産業人材育成を行ってきたハノイ工業大学の卒業生も多く勤めており、日系企業の魅力や日本人とベトナム人との働き方の違い等について意見交換を行いました。



◆ホームステイ

ホアビン省モー2村の家庭にホームステイをし、ベトナムの生活や文化、習慣について理解を深めました。村の人たちや子どもたちとの文化交流を通して村落部での医療事情、女性と男性の役割、職業、子どもの将来感等について知る機会を得ました。また伝統的な民族舞踊鑑賞もあり、無形文化財の重要性や保護・継承についても考える機会となりました。



◆ Trung Tu 小学校

ハノイ市内にある公立小学校を訪問。小学2年生の音楽の授業を見学させて頂いた後、児童たちに好きな教科、将来の夢などについて聞いたり、日本の歌を教えたりと交流を行いました。また教員との意見交換も行い、学校・授業視察を通して、ベトナムの教育現場の現状を理解することができました。



◆ ツーズー病院平和村

ベトナム戦争の負の遺産である枯葉剤の影響により重度の障害をもった子供たちが生活をしているツーズー病院平和村を訪問し、子供たちの生活の様子を見学。また枯葉剤の影響で結合双生児として生まれ、日本人医師の支援を受けて分離手術を受けたドクさんとの意見交換の時間も頂き、戦争や平和について再考しました。



◆ グエンディンチェウ病院

海外協力隊（作業療法士）が派遣されている病院を訪問し、JICA が実施するボランティア事業について理解を深めました。隊員はリハビリテーション科に配属されており、当初は言葉の壁や価値観の違いに悩みつつも、徐々に自分の技術が周りに評価されて同僚たちからの信頼を得るようになったこと等の経験談を聞かせて頂きました。



◆ 清水建設株式会社

円借款事業「ホーチミン市都市鉄道建設事業（ベトナムインフラプロジェクト1号線）」を担っている清水建設株式会社を訪問し、ホーチミン市の交通事情、事業の概要、移転される日本技術等について説明を伺いました。支援を実施するにあたり技術や品質管理、安全確保についての伝授にも力を入れており、日本人技術者の職業意識の高さを目の当たりにしました。



◆ ベトナム日本人材協力センター（VJCC）

技術協力プロジェクト「ベトナム日本人材協力センター（VJCC）・ビジネス人材育成・拠点機能強化プロジェクト」の専門家より、日本のベトナムに対する産業人材育成分野での協力についてお話を伺いました。また同敷地内にある貿易大学で日本語を第一外国語として選択している大学生たちと交流し、意見交換を行いました。



(4) 私の1枚 in ベトナム



命との距離感



女性たちは、この高床式家屋の床の上で子供を生む。床下に見える船のようなものは、棺桶だ。前近代的な農村生活の中では、生と死がより近くにある。ここでは、自分たちが飼っている鶏や魚を捌いて食事としている。それは、私達の近代的な消費生活では失われてしまった貴重な命に関わる経験だ。一方で、そうした村人たちは、我々と同様に電力やスマホに依存している。また、現金を求めて都市に出稼ぎや進学をしている。そんな状況でも、モー村は、様々な国々から観光客を受け入れるグローバルなアグリツーリズムの拠点として共同体を維持している。そこでは、農村の伝統は、商業化されざるを得ないが、商業化とおして伝統は引き継がれている。持続可能な開発の一つの取り組みなのだ。(SDGs : 11,16,17)



名前 関山 茂樹 学校 新潟清心女子中学・高等学校

自然と共に生きる



水位が大きく変化するメコン川に浮かぶフローティングハウス。自然と共に生きていこうとしている光景が強く心に残った。押さえつけようとしたり、拒否しようとしたりするのではなく、あるものを認め、受け入れることで生活できる。それは、自分たちにも言えることのような気がしてならない。(SDGs : 11,13,14,15)

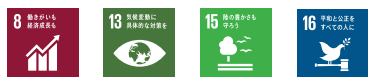


名前 山田 あかり 学校 長野県駒ヶ根市立中沢小学校

よりよく生きる、豊かさの追及



首都ハノイでの研修後に訪れたモー2村。農村部に移動すると、インフラ整備や公衆衛生管理に差が見られた。変わりゆく文化や風習に対して、普遍的な自然がモー2村には多くあった。また、彼らの原始的な生活には、郷土愛や家族愛、友愛の心が分かりやすく存在していることに気付いた。そして、押し寄せる新時代の波も、肌でひしひしと感じた。国の発展と安定した生活を願う気持ちや行動だけでなく、豊かな人間性や感じる心を大切にしていきたいと強く思った。(SDGs : 8, 13, 15, 16)



名前 小針 真利恵 学校 町田市立山崎小学校

ベトナムの小学校



ベトナムで音楽の授業を参観させていただき、その後児童と交流をしました。ドラえもんなど、日本のアニメがみんな大好きでした。国は違ってもつながれるものがあるってすてきだと感じました。子ども達のキラキラした表情が印象的でした。(SDGs : 4)



名前 山口 三依子 学校 市原市立五井中学校

持続可能性のタネ

JICAの技術協力支援「安全作物の信頼性向上プロジェクト」YEN PHU農協視察時の一枚。右側は、技術導入前のゴーヤ。



左側は、導入後のゴーヤ。大きさ、凹凸の均一性、青々しさ、味にも大きな変化がみられる。不織布などで害虫被害を減少させることで、農業使用量を減らして安全性を向上させたり、自然由来の堆肥を使用することで、品質を向上させたりと、自然にも人間にも優しいSustainabilityな農業技術を導入することで、経済的にも付加価値を持たせ、農家のやりがいを出するという、持続可能な社会を実現していくアイデアが詰まったプロジェクトだった。誇らしげに農作物を紹介をする組合長の姿に、国際協力の持つ力を感させられた。

(SDGs : 3, 8, 15)



名前 木村 奈津子 学校 埼玉県立和光国際高等学校

ベトナムの街で輝く日の丸



空港、病院、道路など、ベトナムの街の至るところで、日本の国旗が見られた。研修プログラムで訪問した清水建設では、ベトナム初の地下鉄開通に向け、鉄道建設事業を行っている。地下鉄が完成すれば、交通渋滞や交通事故などの諸問題は緩和するだろう。ベトナムの街で輝く日の丸を見て、日本とベトナムのつながりを強く感じた。

(SDGs : 9,11)



名前 迎里 健也 学校 八王子市立鎌水小学校

WE LOVE THE PEACE

戦争証跡博物館（ベトナム侵略戦争の罪悪と余波について展示）博物館では、カメラ撮影ができる。正しい知識を得て、発信していく必要性を感じた瞬間であった。博物館前にはツーズー病院平和村を訪問し、枯葉剤で影響を受けた子ども達と交流やドクさんと意見交換をした。「戦争は大きな代償を作り、人類を滅ぼす、戦争は問題を解決しない。」という言葉が印象的だった。次の日が日本の終戦記念日であり、より考え深い日であった。平和であり続け、世界が平和になることを祈りたい。



(SDGs : すべてに関連)

名前 増子 美香 学校 吉川市立美南小学校



水環境からみるベトナムの格差



ハノイは大雨による洪水が絶えない地区である。その上、急成長を遂げるベトナムでは、工業化と人口集中により水質汚濁が問題となっている。JICAの支援により、整備が進んでいる。しかし、未整備の地区では今もなおゴミに溢れ、異臭を放っていた。整備された地区と未整備の地区に住む人々の暮らしの格差は明らかであった。
(SDGs: 1, 2, 3, 6, 10, 11, 12, 14, 15)



名前 本木 淳也 学校 佐倉市立南志津小学校

あーあ、落っこちた。

村の集会場につるしてある鐘。それはかつてこの村にフランス軍が落とした爆弾の痕。この村にも支配と戦争の歴史が残る。しかし、そんなことは露知らず、子供たちは無邪気に笑う。訪問客を笑顔で遊びの輪に加える。「ボン」。ボールが一跳ね。一目散にみんなで追いかける。「あーあ、落っこちた。」
(SDGs: 16,17)



名前 吉田 大祐 学校 埼玉県立鳩ヶ谷高等学校

繋がっている



モー村での1枚。この写真には、グローバリズムと歴史の流れがある。右に写るのは、ベトナム戦争でこの村に落とされた爆弾。その歴史の上に、日本人の私が今立っている。ハノイから4時間離れたモー村に来てしまえる日本人の私。私の一挙手一投足は、この未来に何かしらの影響を及ぼすのだろう。世界や時間、すべてが繋がっているんだと実感させられた一枚だ。
(SDGs: 17)



名前 川上 絢子 学校 東京都立青梅総合高等学校

6. 海外研修（ザンビア）

（1）研修国の概要

正式名称：（和文）ザンビア共和国
（英文）Republic of Zambia



政 体：共和制
首 都：ルサカ（Lusaka）
面 積：752.61千km²
人 口：1,709万人（2017年：世銀）
民 族：73部族（トンガ系、チェワ系、ベンバ系、ロジ系）
言 語：英語（公用語）、ベンバ語、
ニャンジャ語、トンガ語
宗 教：8割近くはキリスト教、
その他イスラム教、ヒンドゥー教、
伝統宗教



通 貨：ザンビア・クワチャ（ZMW）
為替レート：1米ドル=10.46ZMW（2018年平均）
日本との時差：-7時間
主要産業：鉱業（銅、コバルト等）、
農業（トウモロコシ、砂糖、タバコ、綿花、オリーブ油）、観光
G D P：258億米ドル（2017年：世銀）
一人当たりGNI：1,300米ドル（2017年：世銀）
経済成長率：4.1%（2017年：世銀）

略 史：8～12世紀バンツー語系民族が北方から到来、先住のサン（ブッシュマン）を駆逐して農耕、牧畜を始める。1889年イギリス南アフリカ会社の管轄下に入る。1964年独立（旧宗主国英国）、カウンダ大統領就任。

気 候：熱帯性気候だが、国土の大部分が高地のためしのぎやすい。季節は5月～8月の「涼しい乾季」、9～11月の「暑い乾季」、12～4月の「暑い雨季」の3つに大別できる。雨季でも降雨後は晴天となり涼しくなることが多い。首都ルサカの年間平均気温は摂氏20.2度で、暑いとされる季節でも日陰はかなり涼しい。日差しは強い。

在留邦人数：269人（2017年10月現在:外務省）

在日ザンビア人数：134人（2017年12月末現在:法務省）

青年海外協力隊派遣取極：1970年

【参考サイト】

- ・外務省「各国・地域情勢（ザンビア）」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/zambia/index.html>（2019年2月アクセス）
- ・JICA「国別生活情報(ザンビア)」
<https://www.jica.go.jp/regions/seikatsu/ku57pq000005g0zr-att/Zambia-p.pdf>（2019年2月アクセス）

(2) 海外研修日程

日付	時間	活動・訪問先	ねらい
7/25 (水)	夜	成田空港集合	
7/26 (木)	午前	成田発→アディスアベバ着 アディスアベバ発→ルサカ着	
7/27 (金)	午前	JICA 事務所 ナショナルサイエンスセンター ＜無償資金協力・技術協力 プロジェクト＞	JICA の対ザンビア事業概要、教育分野の協力概要について理解する
	午後	ンサンサ孤児院見学 (NPO)	首都にいるストリートチルドレンを収容、支援する施設を見学、経営者 夫妻や子供たちと意見交換を行う
7/28 (土)	午前	移動 (ルサカ→リビングストーン)	
	午後	国立公園、 ビクトリアフォールズ視察	ザンビアの自然文化について理解を深める
7/29 (日)	午前	国立公園、 ビクトリアフォールズ視察	ザンビアの自然文化について理解を深める
	午後	民族文化視察 (Wayi Wayi Art Gallery)	ベンバ族の文化への見識を深める
7/30 (月)	午前	移動 (リビングストーン→モンゼ)	移動車内で地方部及びボランティアの活動視察振り返り
	午後	シムカレ初等学校視察 ＜青年海外協力隊配属先＞ チャールズワンガ教員養成校視察	地方の小学校で活動する青年海外協力隊の活動現場を視察し、授業見学、 児童へのインタビュー、教員との意見交換を行う。また、教員養成校を 視察し、学生及び教員との意見交換を行う。
7/31 (火)	午前	ナチボマ初等学校視察 ＜青年海外協力隊配属先＞	地方の小学校で活動する青年海外協力隊の活動現場を視察し、授業見学、 児童へのインタビュー、教員との意見交換を行う。
	午後	日立建機ザンビア視察	ザンビアへの日本民間企業進出の現状を視察する。
8/1 (水)	午前	カフェ郡農業事務所 丸森町プロジェクトサイト (ムテバ村) ＜草の根技術協力＞	丸森町の在来技術を活用した小規模農家の食料の安定利用強化プロジェ クトを視察する。
	午後	カイゼンプロジェクト (トレードキング社) ＜開発計画調査型技術協力＞	専門家より概要説明を聞き、プロジェクト成果を知る。
8/2 (木)	午前	コンパウンド (未計画居住区) 視察 ＜無償資金協力＞	コンパウンドへのベーシックヒューマンニーズ(水、保健、教育) に対 する協力成果と現状を視察し、関係者との意見交換を行う。
	午後	マテロヘルスセンター ＜無償資金協力＞	ルサカ郡病院アップグレード計画を視察し、医療協力の現状と成果を学ぶ。
8/3 (金)	午前	在ルサカ日本大使館 JICA 事務所報告	現地活動成果を大使館にて報告する。 JICA 事務所にて研修成果を報告する。
	午後	ルサカ発	
8/4 (土)	午後	バンコク着	
8/5 (日)	未明	バンコク発→成田着	

(3) 海外研修トピックス

◆ナショナルサイエンスセンター

日本と30年以上の協力の歴史を持つ教育研究機関。教育政策研究とカリキュラム策定、現職教員研修、教材開発と作成、IT化などに多角的に取り組む。バンダ所長はJICA研修員として来日し、授業研究を学んでザンビアへの導入に尽力した人物。



◆ンサンサ孤児院

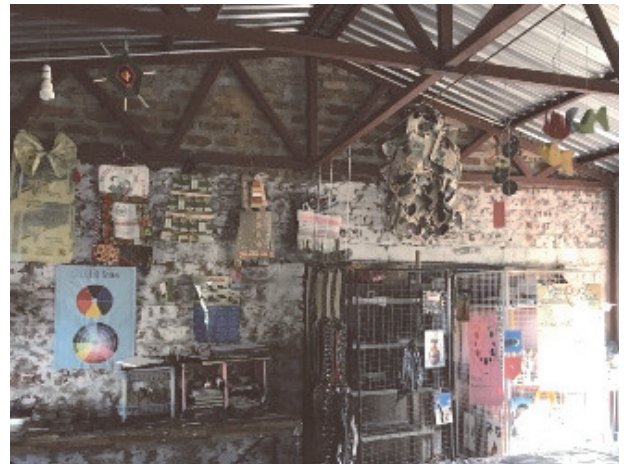
首都に住むストリートチルドレン（男子）を収容・支援している。そのほかにも日曜に協会に来る子どもたちに食事、入浴のサービスを提供し、里親とのマッチング、カウンセリングも実施している。日立建機ザンビアの支援を受け、郊外に女子も収容できるドミトリ―建設中である。



◆Wayi Wayi Art Gallery

ベンバ族のオーナー夫妻が経営するアートギャラリー。孤児等へのアートクラス開催などコミュニティ支援活動、廃品利用のアート作成による環境教

育活動、ベンバ族の結婚・人生観と伝統儀式などについての説明をうけた。



◆マテロヘルスセンター

地方からの人口流入が進む首都ルサカでは、医療サービスの整備が急務。ルサカ郡を5つのゾーンに分け、各地に拠点病院を建設する計画が日本の無償資金協力で実施中。マテロ地区に建設されたこの病院では、住民約70万人を対象に医療サービスを提供。入院・手術が可能なこの病院は、多くの妊婦や赤ん坊を連れてお母さんが訪れている。



◆カフエ郡農業事務所、ムテバ村（丸森町草の根技術協力プロジェクト）

宮城県丸森町がもつ農業技術を活かして、ムテバ村の換金作物栽培を支援するプロジェクト。きのこ、蜂蜜、米などの栽培技術の移転とともに、住民の栄養改善にも取り組んでいます。村の人々と一緒に現地食（シマ）を調理して食事をとるとし、村の暮らしや人々の思いに触れて充実した訪問となりました。



◆ナチポマ初等学校、シムカレ初等学校

ナチポマはマザブカの村落部にある電気も水道もない学校、モンゼは地方都市の中心部に位置する学校です。青年海外協力隊員が活動する両学校を訪問し授業参観、ザンビア国内での教育格差も実感しました。教員たちとの意見交換をとおして、教育事情は大きく違っても、教育の大切さへの熱い想いは共通していることを見つけることが出来ました。



◆カニヤマ コンパウンド

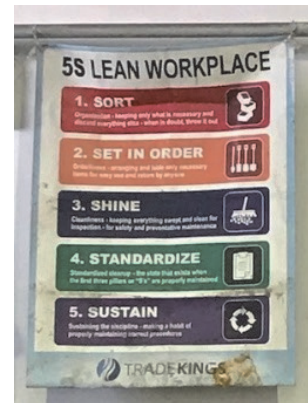


地方から首都へ職を求めて流入した人口の多くは、郊外の未計画居住区を形成し、劣悪な居住環境が問題となっています。そうした地区の一つ、カニヤ

マコンパウンドを訪れ、日本の支援で建設された給水塔、ヘルスセンター等を視察しました。地方の農村とは違った、都市型の貧困問題へのとりくみを見ることが出来ました。

◆トレードキング社（カイゼンプロジェクト事業）

日本の高度経済成長の原動力として、品質・生産性向上手法（カイゼン）は、世界の生産現場で注目を集めています。ルサカ郊外のトレードキング社では、5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の概念を採り入れ、工場の生産性を高めることに成功しています。



◆日立建機

日立建機は、ザンビアの銅鉱山をはじめ南部アフリカ各地で活躍する同社製の大型鉱山機械の再生利用をサポートする拠点をルサカに建設し、事業を展開しています。

従業員の8割以上をザンビア人が占め、雇用の創出、奨学金制度による人材育成、法人税による現地経済への還元など、ビジネスによる国際協力の視点を得ることが出来ました。





(4) 私の1枚 in ザンビア共和国

ゴミじゃない、教材だ！



私が飛行機でザンビアに降り立ち、まず気になったことは、道端に積もるゴミだった。そのような中で「wayi wayi art garally」では、ゴミを再利用して作った子どもたちの作品が展示してあった。経済成長が進むザンビア全体では、ゴミ問題の課題が残っている中で、ゴミ問題に関心を向ける為のきっかけとなる一枚だと感じた。(SDG s : 3, 12, 13, 14)



名前 佐藤 大樹

学校 埼玉県立本庄特別支援学校

win-win となる国際協力とは？



空港を降り立ってすぐ目に飛び込んできたのは Bank of China の看板。周りを見れば中国建築会社による工事現場や中華料理店、雑貨店など中国の浸透の深さを感じた。道を歩いている時も中国人に間違われることがほとんどだ。中国によるインフラ整備が進む一方、ザンビア政府の中国企業への優遇等によりザンビア国民の不満は高まっている。(SDG s : 8, 9)



名前 島倉 沙織

学校 長野県下高井農林高等学校

Teaching is Passion!



チャールズワンガ教員養成校でインタビューした家庭科の先生と。“Teaching is Passion. We keep on learning every time, every day of our life.” という言葉が忘れられない。国境を越えても同じ教師としての「想い」を感じた。私も情熱を持ち、目の前の生徒のために学び続ける教師でありたいと思う。(SDG s : 1, 3, 4, 8, 10, 16)



名前 中島真紀子

学校 筑波大学附属中学校

ザンビアの未来



理数科教育を担うナショナルサイエンスセンターで、日本も資金協力をする現在建設中の教員養成施設を見学した。この地には子ども達が科学に興味をもってほしいと、科学博物館を建設予定である。ザンビアが抱える様々な問題を解決するのは教育であろう。広大な土地には数年後、興味津々で学ぶ子どもたちの声が響いているだろう。(SDG s : 4, 17)



名前 佐藤 英恵

学校 埼玉県杉戸町立杉戸小学校

ザンビアの課題と未来



ザンビアは銅工業への過度の依存のため、貧困の深刻化や経済発展の遅れに悩まされていることを知った。移動中のバスの中から、銅板を運ぶトラックが主要道路を走っている様子を見て、「銅鉱業だけでなく、農業も発展させるべき。」「運送業を発展させるためにも道路を整備すべき。」など、何が必要か、何をすべきか考えた。(SDG s : 8, 9)



名前 喜多 良仁 学校 羽村市立栄小学校

コンパウンドの大通り



コンパウンドに住む人々が買い物をする日常風景。カラフルなチテンゲが美しい。赤ちゃんを背負って買い物する女性や妊婦が多く、人口増加がうかがえると同時に、今後人口爆発による様々な問題が噴出するのでは?とも思わされた。生活感あふれるコンパウンドの雑踏の中にザンビアの人々の熱と勢いを感じることができた。(SDG s : 1, 3, 5, 11)



名前 西 克幸 学校 桜美林中学高等学校

夜の大瀑布に浮かぶ虹



この虹はビクトリアの滝の水しぶきと月明かりによってできています。静けさの中に轟く大瀑布の轟音、美しい虹と夜空に浮かぶ月と星々のコントラストに神秘さを感じました。

しかし、ザンビア人は安い入場料でも中々入れないそうです。実際に虹を観たことがある子どもはごく僅かでした。この虹は、観光地化の光と影の屈折を考えさせられました。

水力発電の利用や観光地化での経済効果がある一方、この光景が子々孫々まで残されていくよう、環境保全も大切になっていくと思います。(SDG s : 13, 14, 15)



名前 菅原 唯 学校 千葉県立市川工業高等学校

子どもの笑顔は世界共通！すべての子どもに教育を～



孤児院を訪れて、子どもたちの笑顔とパワーに驚いた。その子どもたちを支えるご夫婦の情熱と大きな愛情にまた心打たれた。一人一人の子どもはみんな可能性を秘めている。すべての子どもは夢に向かって歩いてゆく。高架下で暮らす少年たちに私は果たして何ができるであろうか・・・
ザンビアだけでなく身近な子どもたちにももっと寄り添っていかなければならない。
(SDG s : 1, 4)



名前 平田 慶子 学校 大田区立六郷中学校

パートナーシップ



「からかう男の子を女の子が追いかけているの・・・」「私のクラスも！！」これは、ナチボマ初等学校で同じ6年生を担任している女性の先生との会話です。さらに子供たちのためによりいい先生になりたいという気持ちも同じでした。日本とザンビア、様々な違いはあれど、同じ目標をもち頑張っている先生がいると知り私のモチベーションにもなりました。「パートナーシップで目標を達成しよう」みんなで目の前の子供たちのために。(SDG s : 17)



名前 新居 名菜子 学校 東村山市立東萩山小学校

Africa Needs Trade Than Aid



お土産に買ってきたコーヒー豆。数少ない、Made in Zambiaの製品です。首都ルサカのスーパーマーケットに行くと、商品の多くは南アフリカ共和国産でした。「国際協力=援助」と思っていた私にとって、研修で学んだ“Ownership & Sustainability”の考えがパッケージに記載されていたことに驚き！
(SDG s : 8, 17)



名前 多田 幸城 学校 千葉市立宮野木小学校

7. 派遣後研修

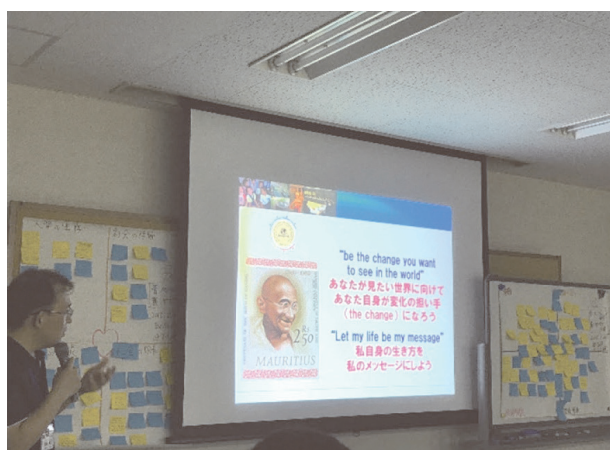
日時：2018年8月26日（日）

場所：JICA 東京国際センター

目的：海外研修の経験を生かした授業の実施・教材作成について考える。

8月26日（日） 派遣後研修@ JICA 東京 セミナールーム406～409

所要時間	プログラム	目的/説明	講師・進行
09:30	受付開始		
10:00	5 開会挨拶		JICA 東京 杉村悟郎
10:05	20 海外研修の体験共有準備	「私の一枚」を利用して各コースの体験を共有する	東京都市大学 佐藤真久 JICA 東京 遠藤宏之
10:25	60 海外研修の体験の共有	授業実践案の作成に向けて、海外研修の体験/素材を整理し、共有する	JICA 東京
11:25	5 休憩		
11:30	60 【講義】 海外研修の体験を生かした授業づくり	授業実践案の作成に向けて、海外研修の体験を生かした授業づくりについて学ぶ	東京都市大学 佐藤真久
12:30	60 昼食		
13:30	15 【講義】 授業実践の振り返りと報告書の記載	PDCA サイクルに基いた授業の実施と報告書への記載について理解する	JICA 東京 遠藤宏之
13:45	60 <コース別> 【グループワーク】 授業実践案の見直し	校種もしくは教科毎に授業計画を検討	東京都市大学 佐藤真久 JICA 東京 遠藤宏之
14:45	5 移動		
14:50	60 授業実践全体共有	都県毎に授業計画を発表しあい、同じ地域の参加者および JICA 東京スタッフと授業実践案を共有する。都県ごとの今後のネットワーク構築を検討する。	古賀・深林・佐藤 永井 土屋 岡田・竹内・北
15:50			
16:00			
16:45	15 事務連絡・アンケートの記入	今後の研修の流れ（授業実践、県別報告会、3月全体報告会、報告書の提出について）	JICA 東京
17:00	解散		



グループワーク「海外研修の体験の整理と共有」



校種・地域別ワーク「授業実践案の共有と検討」

8. 授業実践

[ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度]とは以下の7つのことです。

1. 批判的に考える力
2. 未来像を予測して計画を立てる力
3. 多面的、総合的に考える力
4. コミュニケーションを行う力
5. 他者と協力する態度
6. つながりを尊重する態度
7. 進んで参加する態度

これらの能力・態度については、事前研修で示しています。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

国名	学校名:	● 実践教科等:	
	氏名:	● 時間数 : 時間	
	[担当教科:]	● 対象生徒 :	
		● 対象人数 : 人	

1 単元名

2 単元の目標

ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

3 単元の指導について

(1)教材観

(2)児童生徒観

(3)指導観

4 評価規準

観点	評価規準	評価方法		

5 単元の構成

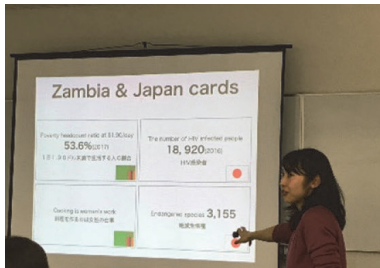
時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1			
2			

9. 授業実践報告会

参加者の各都県で実施された国際理解教育セミナーやグローバルセミナーにおいて、地域の方々に教師海外研修の経験を生かした授業実践についての報告を行いました。

■長野県

イベント名：JICA 教師海外研修報告会
長野県報告会& SDGs ワークショップ
日時：2019年3月2日(土)
場所：JICA 駒ヶ根
主催：JICA 駒ヶ根 後援：外務省、文部科学省、長野県教育委員会、公益社団法人長野県私学教育協会
参加者：35名
プログラム：
テーマ「JICA 教師海外研修に参加した先生方は、SDGs を授業にどう活かしているか、一緒に学びませんか？」
1. JICA 教師海外研修の概要説明
2. カードゲーム「2030 SDGs (ニイゼロサンゼロ エスディーゼズ)」
3. 教師海外研修授業実践報告



■埼玉県

イベント名：グローバルセミナー 2019
地域で育むグローバル市民
日時：2019年2月10日(日) 10:00 ~ 16:45
場所：コーププラザ浦和
主催：(NPO 法人) 埼玉 NGO ネットワーク
(公財) 埼玉県国際交流協会、JICA 東京
参加者：93名
プログラム：
1. 教師海外研修授業実践報告
2. SDGs 活動事例紹介
3. グループディスカッション



■群馬県

イベント名：ぐんまグローバルセミナー 2019
日時：2019年2月23日(土)
場所：群馬県庁
主催：(公財) 群馬県観光物産国際協会、NPO 法人 ESD ぐんま、JICA 東京
参加者：33名
プログラム：
1. 教師海外研修授業実践報告①
2. 教師海外研修授業実践報告②
3. ワークショップ NPO 法人 ESD ぐんま (太田祥一氏)



■新潟県

イベント名：第 21 回国際教育研究会
JICA 教師海外研修報告会
日時：2019年1月26日(土)
場所：クロスバルにいがた
主催：特定非営利活動法人にいがた NGO ネットワーク
共催：JICA 東京
参加者：47名
プログラム：
【第一部】 持続可能な社会の実現に向けた教育の重要性について～アフリカ・ウガンダのスタディーツアーから学ぶ～
【第二部】 JICA 教師海外研修報告
【第三部】 教師海外研修過年度参加者報告 & パネルトーク～教師海外研修の経験を学校づくりに活かすには～



■千葉県

イベント名：国際理解セミナー
日時：2019年3月21日(木)
場所：千葉市文化センター セミナー室
主催：(公財) ちば国際コンベンションビューロー、JICA 東京
参加者：97名 (教海研報告参加者 [関係者含む] :80名)
プログラム：
1. 国境なき医師団 菊池 紘子氏 講演
2. 教師海外研修授業実践報告会 (模擬授業・授業報告)



■東京都

イベント名：2017年度 教師海外研修 東京都報告会
日時：2019年1月13日(日)
場所：JICA 東京
主催：JICA 東京
参加者：76名
プログラム：
1. フォト・ストーリーによる海外研修紹介
2. ポスターセッションによる授業実践報告
3. 協力団体の紹介
4. 座談会
5. 講評



10. 全体報告会

日時：2018年3月16日（土）

場所：JICA 東京

目的：持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力を見直し、授業改善のサイクルにつなげる

3月16日（土）全体報告会 @ JICA 東京 セミナールーム 411

所要時間	プログラム		目的／説明	講師・進行
10:00	受付開始	411 前		全体進行：JICA 東京 遠藤
10:30	5 開会あいさつ プログラム説明		JICA の思い プログラム説明 今日の目的の1つ確認 「持続可能な社会づくりの創り手となることのできる児童・生徒の育成」	JICA 東京 杉村
10:35	55 <校種別>【グループワーク】 授業実践の振り返り	411	授業実践を発表・総括する 1. ワークシート記入 10分 2. 授業実践について発表 40分（10分×人数） ・授業実践の概要 ・イチオシ（またはメイン）の授業 ・良かった点、反省点、課題 ・来年度考えていること・やりたいこと	小学校 JICA 東京 古賀 長野、埼玉デスク 中学校 千葉、群馬デスク 高校 JICA 東京 遠藤 新潟デスク
11:30	60 振り返りの共有・講評		・ JICA, 県教委、大学それぞれの視点から学校外の取組事例を紹介（3分×3人） ・ グループで話し合い（個人2分、グループ7分） ・ 共有に向けて発表内容の絞り込み 10分 ・ 各グループ5分で授業実践、反省点・課題、来年度考えていることなど各1～2点を発表 ・ 学校外でやってみたいことも	東京都市大学教授 佐藤真久 JICA 東京 古賀、遠藤
12:30	60 昼食	食堂		
13:30	10 写真課題・ワークシート記述 共有	411		東京大学教授 白水始
13:40	30 【講義】持続可能な社会づくりの学びを支える授業研究			東京大学教授 白水始
14:10	10 休憩			
14:20	100 【演習】持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力とは…	411	1. 「持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力」の洗い出し 15分（校種別・6班） 2. グループの1授業例について「見とりの観点」設定 45分（班別） 3. クロストーク 15分（2分×6班） 4. 「持続可能な社会づくりのために育成したい資質・能力」の見直し 10分 5. 【講義】「授業改善のサイクルにどうつなげるか。」10分 6. 質疑応答 5分	東京大学教授 白水始
16:00	10 修了証授与			JICA 東京所長 木野本
16:10	5 閉講のあいさつ			JICA 東京所長 木野本
16:30	記念撮影・解散			



〔講義〕持続可能な社会づくりの学びを支える授業研究



11. 教師海外研修を終えて

所属 JICA東京 学校教育アドバイザー
名前 遠藤 宏之

1. はじめに

昨年4月に埼玉県教育委員会からJICA東京へ、9代目の長期派遣研修教員として派遣されてからの1年間、最も携わってきたのが「教師海外研修」（以下教海研）である。教海研は、6月の事前研修から3月の最終報告会までほぼ1年間に及ぶ濃密な研修である。定員のほぼ4倍の応募があり、選ばれた参加者は大変優秀で熱い気持ちを持った教員ばかりである。

JICAの開発教育支援事業において、教海研は一番有意義な取組であると思う。教海研には新しい学習指導要領でも示されている「持続可能な社会の創り手の育成」へのヒントが随所に散りばめられている。しかし、学校現場においては「開発教育」、「持続可能な社会の創り手の育成」と聞くと「（開発教育って何？）知らない」、「（何をしたいか分からないので）ハードルが高い」という反応がよく聞かれる。また、教海研の存在についても残念ながらあまり知られていない。

教海研の研修内容や参加者の授業実践については本報告書に書いてあるので、ここでは教海研を「知ってもらうため」、開発教育への「ハードルを下げるため」にJICA東京が実践している取組に焦点を当てつつ、次年度以降への展望なども触れたい。

2. 「知ってもらうため」の取組

(1) 年度を超えてお互いの取組を知る

教海研過年度参加者限定ではあるが、国内研修（事前研修、事後研修、全体報告会）を公開（自由参加可能）にした。過年度参加者とつなぐことにより、授業実践や課題の共有だけでなく、次年度以降を見据えた計画作成にも効果があった。また、過年度参加者同士もつながり、教海研参加以降の実践も共有でき、国内研修がより密度の濃いものとなった。

(2) 他団体との連携

教海研参加者には、1月から3月に各県での報告会や国際理解教育セミナーへの参加をお願いしている。これらの報告会やセミナーはJICA単独ではなく、国際理解教育学会やNGO団体などと連携し実施している。それぞれの団体の研修会などで、教海研参加者に報告の時間をもらうことにより、教海研の認知度向上だけでなく、参加者の発表の場確保にもつながっている。

(3) 教員研修以外の新たな発表の場

JICA東京所管の県には、教育センターが実施する教員研修で、JICAの枠として「国際理解教育やグローバル人材育成」というテーマで講義の枠をいただいている自治体がある。そこで、その自治体に所属している教海研参加者に上記のテーマで話をしてもらっている。

さらに今年度は、JICA東京と埼玉県立総合教育センターとの定例会に7名（過年度参加者を含む）参加してもらい、教海研の授業実践を報告、その後教海研及び教海研参加者の活用方法についてディスカッションをした。教員を指導する指導主事の方に教海研の良さを知ってもらおうと企画したが、大成功だった。

(4) SNSの活用

FacebookにJICA東京の教師海外研修用ページを作り（発起人はJICAではなく教海研過年度参加者）、それぞれの取組や各種イベントの案内などを共有する場を設けた。完全にオープンなグループではないが、現在100名を超える教員がメンバーになっている。過年度参加者の中には、他団体に所属してい

る教員もおり、イベントなどの情報が双方向で共有できる。

3. 「ハードルを下げるため」の取組

(1) 学習指導要領との関連

教海研では夏季休業中の海外研修の成果を生かし、2学期に授業実践をお願いしている。その際、教海研に参加しないとできない特別な授業ではなく、参加者それぞれが担当している教科・領域の単元の中での実践をお願いした。海外研修を体験しないとできない授業もちろん必要だが、1人で教えられる人数は限りがあり、できるだけ多くの教員に取り組んでもらえる方が児童・生徒のためになるはずである。実際今年度の参加者が作成した学習指導案で、他の教員に取り組んだという例が複数あった。

(2) SDGs（持続可能な開発目標）との関連

2015年に国連で採択されたSDGsであるが、近年は経済界をはじめ、SDGsという言葉を経営界やメディアで見聞きするようになった。教育界のSDGsの認知度については、残念ながら相当に遅れている。そこで2年前から、教海研においてSDGsをテーマにかかげ、事前研修などにも講義を取り入れ、授業実践にSDGsを関連付けさせるようにしている。SDGsを扱う上で大切なことは児童・生徒の「自分事」に落とし込んだ内容にすることである。「自分事」にすることで、児童・生徒の興味・関心が高まり、グループでの話し合いや発表の場も活発になる。また、SDGsは新しいことではなく、現在やっていることを捉えなおしていることを他の教員に分かってもらうことも重要である。

4. 次年度以降取り入れたい取組

JICA東京の教海研は教員を成長させる素晴らしいプログラムであるが、改善できることはある。実現可能かは分からないが希望を込めて書かせていただく。

(1) 行政官コースとの連携

教海研には教員コースの他に行政官コースという教育行政担当者を連れて行くプログラムがある。教員コースの海外研修時に同じ自治体の行政官に同行してもらい、教海研を「知ってもらう」ことで、その後の教員への浸透度合いは格段に変わるはずである。

(2) 学校教育アドバイザーの他拠点研修参加

開発教育は特別なものではなく普通の授業に取り入れることができる、という取組は全ての拠点で実施されているわけではない。学校教育アドバイザーは教員のこともJICAのことも理解している貴重な人材である。その知見をJICA東京だけではなく、他拠点の国内研修や授業実践視察などでも活用できるのではないだろうか？私も教海研以外の用務ではあったが、他の国内拠点に訪問し、所管の教育委員会でお話する機会をいただけた。地方の状況を直に知ることで私自身の視野も広がった。

5. おわりに

今年度教海研に参加したみなさんと一緒にほぼ1年間かけてこの教海研を共に作り上げる機会をもらえとても充実した1年だった。開発教育の目標は新しい学習指導要領が目指している所と重なる部分が多いことは様々な場面で述べてきた。しかし、まだまだ学校現場の教員に浸透していないことも理解している。みなさんの取組の方向性は正しいと確信しているが、その素晴らしさ・重要性に気づいてもらえるのはもう少し時間がかかるかもしれない。もし同僚の教員が興味を持ってくれたら、是非それぞれの教員の状況に合わせた取組ができるよう手を差し伸べてあげてほしい。それぞれの立場で、持続可能な取組を地道に草の根的に続けていってほしい。私もこの1年の経験をどう生かせるか学校現場の教員と共に模索していきたい。来年度更にパワーアップした教海研を楽しみにしている。

12. 学校・教員のための開発教育・国際理解教育支援プログラム

学校・教員のための開発教育・ 国際理解教育支援プログラム

JICAは、これまでの開発途上国での国際協力の経験を通じて培ってきた知見を、持続可能な社会づくりを担う子供たちを育成する教育に役立てていただくため、国際理解教育/開発教育支援事業を行っています。

JICAは、開発教育/国際理解教育を支援することにより、「世界の様々な開発課題と我が国との関係を知り」「それらを自らの問題として捉え主体的に考え」「根本的解決に向けた取り組みに参加する」人を増やすことを目指します。

教員向けプログラム

●教師海外研修

国際理解・開発教育に関心を持つ教員を対象に、夏休み期間中10日間程度の開発途上国視察を含む1年間のプログラムです。世界が直面する開発課題および日本との関係、国際協力の必要性に対する理解を促進し、学校現場等での授業実践を通じて国際理解・開発教育の推進を担っていただきます。

JICA東京では、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)を切り口に研修を構成しており、世界の課題を自分事としてとらえ、地域の課題にも目を向け、主体的に行動できる児童・生徒の育成を目指しています。



●青年海外協力隊（現職教員特別参加制度）

公立学校、国立大学付属学校及び私立学校の教員が「教員」としての身分を保持したまま青年海外協力隊・日系社会青年ボランティアへ参加する制度です。教員が開発途上国において国際教育協力に従事することによって、コミュニケーション・異文化理解の能力を身につけ、国際化のための素養を児童・生徒に波及的に広めることが期待されています。



児童・生徒向けプログラム

●国際協力出前講座

開発途上国の実情や日本との関係、国際協力の必要性について考える機会として、JICAボランティア経験者を講師として紹介するプログラムです。ご希望に応じて、開発途上国からの研修員をご紹介することも可能です。学校を中心に、毎年全国で2,000件以上、約20万人が受講しています。



●国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

開発途上国の現状や国際協力の必要性について理解を深め、自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的に、中学生・高校生を対象としたエッセイコンテストを毎年実施しています。上位入賞者には、副賞として開発途上国へのスタディーツアーへ参加することができます。毎年、7万点を超える作品が寄せられています。夏休みの宿題や作文指導としてもご活用ください。

●「世界の笑顔のために」プログラム

開発途上国で必要とされている、教育、福祉、スポーツ、文化などの関連物品を提供していただき、JICAが派遣中のボランティアを通じて世界各地へ届けます。国内の指定倉庫までの送料はご負担いただく必要がありますが、現地までの送料をJICAが負担いたします。個人での参加はもちろん、学校やクラス単位でもご応募いただけます。



開発教育・国際理解教育のための教材

●先生のお役立ちサイト

JICAでは、国際理解教育や総合的な学習の時間に役立つ教材を作成し、無料で提供しています。国際協力や地球規模の課題をテーマにした冊子・動画・ウェブ等の教材をダウンロードすることができます。授業に合わせてぜひご活用ください。



JICA 開発教育・国際理解教育サイト

●授業で使える10分映像集

授業でそのまま活用できる、中高生を対象にしたアクティブラーニング用の映像教材です。四つのテーマ「難民」「イスラム」「国際協力・ODA」「教育」をそれぞれ10分程の映像にまとめています。



●国際理解教育実践資料集

世界に存在している課題について、その問題のポイントや子どもたちに知ってほしい内容を分かりやすく解説しています。また、それぞれの学習内容ごとに学習指導要領やESDの分野との関連を示しています。



●どうなってるの？世界と日本

私たちの日常生活と開発途上国とのつながりについて、クイズに答えながらわかりやすく学べる小中学生向け資料です。食べ物やエネルギーなど私たちの生活に欠かせないものはどこからきているのでしょうか。かわいいイラストで楽しく学ぶことができます。



「JICA地球ひろば」のご案内

●JICA地球ひろば

JICA地球ひろばでは、開発途上国の暮らしの現状や、地球が抱える問題、国際協力の実情などを、見て・聞いて・さわって体験できる展示と、開発途上国での活動体験談や参加型学習を組み合わせたプログラムを実施しています。修学旅行、社会科見学等の団体訪問も受け入れており、年間約1万人に見学いただいています。



開館時間：10時～20時（平日）／10時～18時（土・日・祝）

休館日：第1・第3日曜日、年末年始 ○入館無料

連絡先：〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

TEL：03-3269-2911／0120-767278

詳しくはコチラ

JICA地球ひろば

検索

あなたの近くのJICA相談窓口

●JICAデスク

開発途上国で活動した経験を持つ国際協力推進員が、皆さんのお越しをお待ちしています。

- | | |
|-----|--|
| 埼玉県 | (公財)埼玉県国際交流協会内 Tel: 090-4024-0253
✉ jicadpd-desk-saitamaken@jica.go.jp |
| 千葉県 | (公財)ちば国際コンベンションビューロー内 Tel: 090-4024-0441
✉ jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp |
| 群馬県 | (公財)群馬県観光物産国際協会内 Tel: 090-4024-0097
✉ jicadpd-desk-gunmaken@jica.go.jp |
| 新潟県 | (公財)新潟県国際交流協会内 Tel: 090-4024-1323
✉ jicadpd-desk-niigataken@jica.go.jp |
| 長野県 | (公財)長野県国際化協会内 Tel: 080-1043-2268
✉ jicadpd_desk_naganoken@jica.go.jp |

※東京都については、JICA東京 (Tel: 03-3485-7461)までお問合せください。



おわりに

教師海外研修プログラムは、教員自身が国際理解教育／開発教育／ESDに取り組むに当たり、他都県の現職教員とともに実際に途上国を訪れ、そこで行われている日本の国際協力や支援の現場を視察するとともに、人口増加や貧困問題、近視眼的開発をもたらす様々な環境・開発問題を現場において見て感じ、日本との関係性から「相互依存」と「多文化共生」への理解を深めることを通して、その成果を授業に生かすことを目的としています。2018年度の教師海外研修プログラムは、2015年9月に発表された持続可能な開発目標（SDGs）の発表をうけて、JICA 東京による事務局運営のもと、各地域のJICA デスクと派遣国のJICA 事務所との連携のなかで、新体制で本プログラムを再編成し、運営、実施してきました。教員の所属する都県も、東京都、長野県、埼玉県、新潟県、千葉県、群馬県にわたり、第一線の現職教員の参画による有意義な海外研修プログラムでした。

一昨年度の教師海外研修プログラムは、教員が所属する校種別で訪問国を分けていましたが、昨年度に引きつづき今年度は、校種横断的な派遣編成を行い、ベトナム国とザンビア国において海外研修を行いました。参画した教員は、派遣国や同一校種、出身都県の教員同士でチームとなり、派遣前研修から、派遣中、派遣後研修にわたり、参加準備と現地研修、授業づくりに取り組みました。

先生方は、事前研修で学んだことを実際の海外研修の現場で見て感じることで、「相互依存」と「多文化共生」の理解を深めたことと思います。また、途上国で活躍する日本人に会うことで、多くの感動と日本人としての誇りを胸に刻んだことと思います。帰国後は、それぞれの学校において、「総合的な学習の時間」における国際理解教育／開発教育／ESD や、教科における学習指導、道徳教育や学級活動などの学校教育活動に位置付けて実践が行われました。本海外研修プログラムに参画した先生方が現地で受けた感動と学びは、その先生方の言葉に乗って確実に子どもたちに届き、子どもたちも目を輝かせて授業を受けていました。

今回の海外研修プログラムは、持続可能な開発のための教育（ESD）で指摘されている4つのレンズ（統合的レンズ、文脈的レンズ、批判的レンズ、変容的レンズ、UNESCO（2012）に基づく）を基礎にしたものとして特徴あるものとなりました。さまざまな課題・資源・時間・空間・人をつなげる統合的レンズ（つながり・かかわり）、身近な文脈（歴史や地域）で深め、世界の文脈に拡げる文脈的レンズ（拡がり・ふかまり）、課題の再設定や捉え直し、意味づけ、問いを重視する批判的レンズ（捉え直し、意味づけ）、社会が変わる・変える、個人が変わることを連関させた変容的レンズ（個人の変容、社会の変容）を活かすことにより、今日までの教育実践を新たな次元で捉え直すものでした。

新学習指導要領では、「持続可能な社会」という用語が多々明記されているだけでなく、「何ができるか」や「知っていること・できることをどう使うか」といった資質・能力の重視、主体的・対話的で深い学びやカリキュラム・マネジメント、社会に開かれた教育課程について強調がなされています。近年のグローバル化の時代、これからの地球市民性と混成文化の時代、VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代において、本教師海外研修プログラムに参画された教員自身がこの経験を活かし、同僚の教員らや地域の方々とともに、新たな次元で、学校教育活動の充実に役立てていただけることを切に願う次第です。

2018年度教師海外研修アドバイザー

東京都市大学大学院 環境情報学研究科
教授 佐藤 真久